

伝えたいこと

校長 遠藤 玲

□ 2学期は学校の新しい生活様式への挑戦

おかげさまで大きな事故やケガがなく、2学期終業式を迎えることができました。2学期は、新型コロナウイルス感染症防止対策の「学校の新しい生活様式」の挑戦に試行錯誤でしたが、3年生の修学旅行、2年生の宿泊研修、1年生の研修旅行、そして明倫フェスティバルを無事に終えることができたことにホッとしています。とかく、どうしても「これまで（昨年）と比較」してしまうかもしれませんが、胸を張って言えるのは、これまで以上に明倫中の教職員は時間をかけて考え、苦勞して計画実行したことです。その基点になるのが「生徒にとって」でした。初めては何かと不安がつきものです。反省点はありますが、次年度につながる成果多い2学期でした。反省のポイントも「生徒にとって」です。

□ 「発想の転換」特設道徳 講師 古屋 良一 氏（白老町在住）

7日（月）からの4日間、古屋良一氏を招いての特設道徳を行いました。古屋氏がそれぞれの教室（学級）に出向いての授業で、計12回「発想の転換」というテーマで子どもたちに語りかけていただきました。古屋氏は、先日の学年道徳の茶木谷氏と同じく文化講演会のメンバーとして、全国各地で講演活動を行っているプロです。さすが、ご自身の生き立ち（家系図）に始まり、ご家族のことや子どもたちに伝えたいこと、笑いを交えながら熱く語っていただきました。授業終了後には感動のあまりに涙ぐんでいた生徒もいたようで、生徒にとっても「感じてくれた50分」でした。私にとっては、全学級ほぼ同内容の授業ですので、学級の雰囲気や古屋氏がどう感じたか？が、とても興味深かったです。これからも、多様なプロフェッショナルからの学びの機会を設けていきます。

古屋氏からのパワーメッセージ（一部）紹介

- ・「大変」は「大きく変わる」チャンスである。
- ・「幸せ」とは「仕合わせ」とも書ける
- ・〇〇しかできないと考えるより、〇〇ならできると考える

□ 生徒総会の取組から～考える、思いを伝える、判断する、折り合いをつける

生徒たちが自分たちの学校生活をよりよくするために考える貴重な機会が生徒総会です。そこには、中央委員会（生徒会四役と正副委員長）や学級会、といった社会の縮図を学ぶ絶好の機会でもあります。生徒・教職員ともに一人一人、考えは違います。共通の願い「明倫中学校をよりよくする」ために、どこで折り合いをつけるかがとても重要です。これからの社会で求められる姿が「自分で考え、判断し、行動する」「多様な価値観」と言われています。「みんな同じで」「言われたことを忠実にやる」「周りにあわせる」では生きていけない世の中が待っているとされています。

《学級から提出された課題の例 →中央委員会での見解》

- 移動教室のとき並ばなければいけないのか？
→今の時点では並ばないとバラバラになって授業に遅れる人が絶対います。
最低限のルールとして並んでください。
- 自転車通学をしたい
→交通量が多い道路での事故などの安全面の問題や自転車の置き場所などから認められません。
- ジャンパーの着用の許可を1回にしてほしい
→朝のうちに担任の先生が許可したらその後、他の先生に言わなくても着用は認められています。

生徒たちが「なぜ？」と思ったことに、中央委員会がしっかりと受け止め、回答しています。私たち教職員も、常日頃意識していかなければいけないと改めて感じています。

教職員への依頼事項 ～どう見解をだすのでしょうか？楽しみにしてください。

- ◇ 冬に「ひざかけ」を許可してほしい
- ◇ 女子の白い靴下はなぜダメなのですか？

□ あきらめません！よりよい学びの環境づくり大作戦は続きます！

校舎老朽化に関するご意見を保護者対象の学校教育アンケートでいただいています。校舎老朽化については毎年市教委に要望していますが、なかなか順番が回ってこない現状です。今年の冬はインフルエンザに加え、新型コロナウイルス感染症防止対策が最重要課題です。生徒たちにとってのよりよい学びの環境づくり（勉強しやすい、暑すぎず・寒すぎず）を図りながらの「換気」は絶対必要です。しかし、『校舎内がとっても寒い（温度が上がらない）』のが明倫中学校です。そこで、対策として①暖房機の設定温度を高くした（市教委からの指導は覚悟の上、廊下は最大）、②朝の一定時間、1階ホールで体育館用ジェットヒーターを作動させ、暖気を流す（灯油臭さがネック）、③寒気が流れる箇所に、パーテーション+シートで防御、と教頭、事務職員、校務補らが考えられることをすべて実行してくれています。3学期の厳寒期に向けて、新たな作戦を模索中です。

今年度は **学校教育アンケートへのご協力ありがとうございました** 。

集計結果等については、後日お知らせ致します。改善すべき事項については、できるものは3学期から取り組んでいくこととお約束致します。なお、今後も学級担任や部活動顧問等に聞きづらい、言いづらいことがあれば、校長遠藤が承ります。お子さんの学校生活が今よりも充実されるようご遠慮なく連絡してください。



大会等の主な結果

【バドミントン】

- ・第39回北海道中学生新人バドミントン大会 苫小牧地区選考会
男子シングルス 第1位 ○○ ○○ (2年生)
〔1月全道大会出場(北見市)〕

【その他】

- ・第9回「私のアイイメッセージコンテスト」(毎日新聞社主催)
学校賞 ボランティア部
- ・第70回社会を明るくする運動 作文コンテスト
最優秀賞 ○○ ○○ (3年)
苫小牧地区保護司会賞 ○○ ○○ (1年)
- ・第8回公募日本習字硬筆展
全日本中学校長賞 ○○ ○○ (3年)

自家用車の送迎に係る安全確保について (お願い)

- ◎ 校門前の道路では、特にスピードを落とし、登下校の児童・生徒や歩行者の横断などを最優先に考えて運転をお願いします。
- ◎ 車が多く出入りする朝につきましては、**日新小学校の遊歩道の手前で時計回りに回った後、中学校校門付近で降車するようお願い致します。**
- ・ピノキオ幼稚園側の車線に停車したり、中学校の校門の中に車を乗り入れたりするのはご遠慮ください。
(※車いすや松葉杖などの生徒の送迎はあてはまりません)

子ども相談支援センター 相談窓口のお知らせ

いじめや不登校、体罰などの学校教育に関する悩み、子育て・しつけなど家庭教育に関する悩みなど相談してください。

●電話相談

☎ **0120-3882-56**
(無料、毎日24時間対応)

●メール相談

doken-sodan@hokkaido-c.ed.jp

※急ぎの場合は電話相談を利用してください。

●来所相談

(10~16時、土日・祝日、年末年始はお休みです。)

子ども相談支援センター

札幌市中央区北3条西7丁目道庁別館8階

※上記の電話相談で予約してください。

※ センターのWebページに、「子ども相談支援センターへの相談事例」を掲載しています。次のURLからご覧ください。

URL: <http://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/ssa/soudanjirei.pdf>

※ 生徒の登下校の安全を確保するため、ご理解とご協力をよろしくお願い致します。